

3 ダムの概要と環境問題

訴訟代理人

弁護士 若狭昌稔

[illegible]

ハッ場ダムの目的

- ①吾妻川および利根川本川の洪水被害の軽減
- ②水道用水と工業用水の供給
(群馬、埼玉、茨城、千葉、東京)
通年 9.58m³/秒
非かんがい期 12.629m³/秒
計 22.209m³/秒
- ③吾妻川の流水の正常な機能の維持
- ④発電 (従属発電)

ハッ場ダムの貯水容量10,750万m³の内訳

	洪水期 (7～9月)	非洪水期 (10～6月)
洪水調節容量	6,500	---
水道用水、 工業用水	2,369	8,598
流水の正常な 機能の維持	131	402
堆砂容量	1,750	1,750

2009年度後半から本体工事に着手する予定であったが、中止。
完成予定 2015年度末

移転家屋 470世帯
移転済み 366世帯 (2009年9月末)

ハッ場ダム貯水池の鳥瞰図



「吾妻溪谷」の喪失





吾妻溪谷



ハッ場ダム完成後の景観イメージ



ダム湖水は植物プランクトンの増殖のために緑色を呈する。護岸の水辺付近は植生が貧しく、それより上は帰化植物が優先する群落に覆われる。

(群馬大学社会情報学部 戸叶知美さんの卒業研究論文より(石川真一研究室))

思川開発の目的

- ①思川および利根川中・下流の洪水被害の軽減
- ②流水の正常な機能の維持と異常渇水時の緊急水の補給
- ③水道用水の供給 2.984m³/秒
栃木県 0.403m³/秒
鹿沼市 0.200m³/秒
小山市 0.219m³/秒
古河市 0.586m³/秒
五霞町 0.100m³/秒
埼玉県* 1.163m³/秒
北千葉広域水道企業団0.313m³/秒
* 非かんがい期のみ

2009年度から仮排水トンネル工事
2009年度後半から導水路工事に着手
の予定であったが、凍結。
完成予定 2015年度末

南摩ダムの貯水容量5,100万m³ の内訳

洪水調節容量	500
流水の正常な機能の維持	1,825
渇水対策容量	1,000
水道用水	1,675
堆砂容量	100

最大導水量

黒川|8m³/秒、大芦川|20m³/秒

最大補給量

黒川|1.8m³/秒、大芦川|4.6m³/秒

移転家屋 80世帯
代替地(上南摩地区と西沢地区)への
移転 31世帯



思川開発事業の位置

南摩ダム建設完成予想

南摩ダム完成予想図



南摩川は小河川



南摩川は流域面積が
非常に小さく、
小川のような川である。

湯西川ダムの目的

- ①鬼怒川および利根川本川下流の洪水被害の軽減
- ②流水の正常な機能の維持
- ③農業用水の供給
(栃木県田川沿岸の農地2,000ha)
- ④水道用水の供給
宇都宮市 0.30m³/秒
茨城県 0.218m³/秒
千葉県 1.51m³/秒
- ⑤工業用水の供給
千葉県 0.19m³/秒

2008年10月 本体工事に着手して
工事中
完成予定 2011年度末

湯西川ダムの貯水容量7,500万m³の内訳

	洪水期 (7～9月)	非洪水期 (10～6月)
洪水調節容量	3,000	---
流水の正常な 機能の維持	1,790	2,980
かんがい用水	310	380
水道用水	1,920	3,511
工業用水	180	329
堆砂容量	300	300

移転家屋 138世帯
代替地 (湯西川下地区と西川地区) への
移転 46世帯



←国交省HPより



湯西川溪谷の豊かな景観
はダム建設によって既に失
われた。

ハッ場ダム、湯西川ダム、南摩ダムがもたらすもの

① 貴重で豊かな自然・社会環境等の喪失

- ★ 美しい渓谷の喪失
- ★ 貴重生物の生息が困難に
- ★ 貴重な文化的・歴史的遺産も喪失

② 水質の悪化

- ★ ダム湖での植物プランクトンの異常増殖

③ 災害誘発の危険性（ハッ場ダム）

- ★ 貯水池周辺における地すべりの発生
- ★ ダムサイト岩盤の崩壊の危険性

環境影響評価（アセスメント）

制度化されている場合は勿論のこと、そうでない場合であっても、事案に即して条理法上の義務として要求される。

やればいいということではない。
適正になされる必要がある。

日光太郎杉事件判決

- 土地収用法20条3号所定の「土地の適正且つ合理的な利用に寄与する」ということについて、条理上要求される環境影響評価過程のあり方を示してみせたものといえよう。そして、このような考え方に基づけば、行政法上、明文規定がない場合においても、事案に即して条理法上の行政上の環境アセスメント義務が認められることになる。(山村恒年)



甲B220

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第303集

ハツ場ダム発掘調査集成(1)

東宮・石畑・川原湯勝沼・横壁勝沼・西久保Ⅰ・山根Ⅲ・下田
花畑・楡木Ⅲ・尾坂・三平Ⅰ・二社平・林の御塚・上原Ⅰ遺跡

ハツ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

2002

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

失われる貴重な遺跡

遺 跡 名	調 査 原 因	H 6	H 7	H 8	H 9	H10	H11	H12
東宮遺跡	工事用進入路建設(川原畑進入路)・町道付け替え		—		—			
石畑遺跡	工事用進入路建設(ハッ場沢(1)進入路)	—		—	—	—		
川原湯勝沼遺跡	仮設道路建設・上湯原橋橋台建設					—		
横壁勝沼遺跡	工事用進入路建設(東・中村進入路)	—	—					
西久保Ⅰ遺跡	工事用進入路建設(小倉進入路)・代替地擁壁建設	—				—		—
山根Ⅲ遺跡	町道拡幅・深沢橋橋台建設					—		
下田遺跡	工事用進入路建設(下田進入路)・工事用進入路建設(中原進入路)・コア倉庫建設	—	—		—			
花畑遺跡	工事用仮設道路建設・学校用地造成				—	—	—	—
楡木Ⅲ遺跡	工事用進入路建設(楡木沢進入路)					—		
尾坂遺跡	工事用進入路建設(尾坂進入路)・尾坂橋橋台工事	—	—				—	
三平Ⅰ遺跡	工事用進入路建設(川原畑進入路)					—		
二社平遺跡	工事用進入路建設(穴山沢進入路)			—		—		
林の御塚(H6・10) ・上原Ⅰ遺跡(H9)	工事用進入路建設(林進入路)・現有道拡幅		—		—	—		

甲B 第221号証の1

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第514集

甲B221-1、-2

東宮遺跡 (1)

- 遺構・建築部材編 -

ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第36集

2011

国 土 交 通 省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

八ッ場ダムは、首都圏の利水および治水を目的として計画され、吾妻郡長野原町を中心に工事が進められてきました。八ッ場ダムの建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、本年度で17年目を迎えました。

東宮遺跡は、八ッ場ダム建設工事に伴い平成19年度から発掘調査が開始されました。発掘調査では、天明三年（1783年）の浅間山大噴火に伴う泥流で被災した村が、これまでに例のないほどの極めて良好な遺存状況で出土しました。地中で220年以上も年月が経過したとは思えないほど良好に床板まで残る建物跡は、被災した当時の惨状を生々しく伝えるだけでなく、出土した多くの陶磁器、漆器、木製品、金属製品の遺物とともに、18世紀後半頃の生活様相を豊かに伝えてくれる発見でした。今回は、東宮遺跡で調査された屋敷跡などの遺構や建築部材を中心に報告を纏めることができました。本書が、八ッ場地域の近世の様相を知る上で貴重であり、近世村落史を考える上でも重要な資料になるものと考えています。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者のみなさまには、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

また本書が吾妻郡内、ひいては群馬県の歴史を解明する上で未永く活用されることを願い序といたします。

平成23年2月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 須田 栄一

文化財についてもアセスメントを実施する必要がある

- 環境影響評価法1条：「健康で文化的な生活の確保に資する」
- 環境影響評価技術指針でも対象に



文化財保護法上の重要文化財と同等の価値を有する有形文化財といえる可能性が高く、アセスメントをしないことは違法